

業務部速報



No. 156

発行 22. 3. 30

JR東労組 業務部

申26号 組合員・家族の生活を守り、将来へのモチベーションの維持・向上を実現するための、2022年度賃金引上げ等に関する

緊急再申し入れ 第2回交渉②

* 組合の主な主張の赤字は、中央本部に寄せられた組合員の声です！

実質賃下げとなるため、ベースアップの必要性を訴える！

●22年度の物価上昇はこれまでとは次元が違う！●ガソリン高騰、JR健保の値上げ、昨年の定期昇給半分により、その部分には届いていない！●定期昇給カットで生涯賃金を大きく削り、さらに今年は物価上昇。生活が厳しくなっているにも関わらず、ベアを実施しないのはおかしい！●物価高騰に対する補填としてベアは必要！物価は上がるが給料が上がらないので、生活不安によりモノを買うにも躊躇してしまう●ローンや学費の支払いで大変なことを知ってほしい！●生活レベルを落として「今より働け」はおかしい！●55歳以上やエルダー組合員は定期昇給がない。ベアがないと生活が成り立たない！●エルダーになり給料も下がった。家族に楽をさせてあげたい。値上げばかりで生活が苦しい！ベアがなければこれ以上頑張れない！●55歳以上には賃上げがないと知らなかった。全ての社員に平等な対応することが必要だ！●国鉄時代からJRに代わり、黒字経営を築いてきた。55歳以上の社員に報いるべきだ！

組合の主張

- 定期昇給とベースアップは性質の違うものであり、生活実感に基づきベースアップをするべきだ！
- 物価上昇している社会的な現実があることから、組合員にとっては実質賃下げになり、組合員の生活が苦しんでいる！
- 物価上昇分やコロナ禍における苦労と努力はどの年代も同じである！
- 55歳以上の賃金を含めた労働条件の改善に至っていないのは課題である！



会社の主張

- 物価上昇について、上下動するもので燃料費の上昇は一時的なもの。
- 物価上昇分については一つの要素であるが、様々なものを勘案している。
- 55歳の賃金が上がらないことの提起は受け止める。
- この間、55歳以上の処遇改善に取り組んできている。過去には55歳、57歳の減額を撤廃してきた。

日々の業務での苦労を訴える！

(工務職場)●雨や霧・雪などで踏切故障が頻発し、輸送障害を発生させている。現地への設備確認やログ収集に多くの時間が当てられてしまっている●激甚災害や地震なども多くなることが予想されるなか、人が少ない現場では多くの業務を担い、モチベーションの維持向上するためにはベースアップに応じて頂きたい●社員の早期復旧意識に頼る労務管理では無理が来る。ケガや事故になりかねない！

(運車職場)●車内整備では車両全面清掃や除雪や雪介在によるポイント不転換など取り組んでいる！

(医療職場)●人材不足のなか、コロナに対する対応を細心の注意を払って業務を行っている！

【大地震対応】●地震発生直後、出勤指示を受け、夜中の1時に職場まで自転車で向かった●出先で地震に遭った乗務員が翌日にやっとの思いで職場に戻った●地震翌日に鉄道が不通のためタクシーで出勤するよう指示を受けたが、なかなか乗ることが出来ない上に道路が混雑しており、出勤時間に間に合わなかった●今も新幹線不通区間があるなか、在来線で倍の時間をかけて通勤したり、新幹線と在来線を利用して片道4時間、5時間かけて通勤している●臨時ダイヤで運行を開始している区間では、旅客の案内に追われている。MVでの案内対応やみどりの窓口での発売対応を行うと共に、払い戻しの件数や金額も多く、交付資金を借りて業務している●みどりの窓口閉鎖によって、対応をする駅に負担が集中している●新幹線と臨時快速の乗換駅での案内や対応は、異常時対応状態と言えるほどの混雑ぶりだ。終着駅では折り返しのために、椅子の回転・車内清掃を行っている●一人勤務の箇所もあり、休む暇もなく対応している●復旧や鉄道の安全に対する声が多いが、赤字の中で復旧費用があるのか心配。

組合の主張

- 職場ではいつ、発生するか分からない自然災害に備え、発生してしまった場合の対応に苦労している！
- 現場の努力があつてこそ、復旧に向けた方向性が見えている！
- 災害時においても安全・安定輸送を守るための努力をしている！その努力はいつ、どのように報われるのか！
- 災害時は協力し、チームワークで乗り切るしかないことは現場の私たちがよく分かっている。ヘトヘトになりながら働く、この努力に報いるべきだ！

会社の主張

- 激甚化する災害に使命感をもって復旧することに感謝する。
- 労苦は受け止めている。
- 地震の復旧対応や案内対応は社員一丸となってチームワークで取り組んでいく。
- 社員の努力も賃金の一つの要素である。